

令和元年度足寄町商工会経営発達支援計画  
(伴走型小規模事業者支援推進事業) 実施に伴う (最終) 事業評価会議記録

評価機関名 足寄町商工会  
開催日時 令和2年2月28日(金) 午後5時30分～午後7時20分  
開催場所 足寄町商工会館会議室  
出席者 評価委員 足寄町役場経済課 課長 村田 善映 氏  
北海道銀行足寄支店 支店長 中住 義人 氏  
帯広信用金庫足寄支店 支店長 本多 一仁 氏  
北海道商工会連合会十勝支所主任 亀田 裕樹 氏  
専門家 商業からのまちづくり工房 代表 加藤 玲 氏  
㈱アイ・ピー・エス 代表取締役 山崎 明美 氏  
足寄町商工会 会長 丸山勝由  
副会長 高橋秀樹  
副会長 菅原智美  
事務局 佐々木健一、前崎幸男、大久保基

1. 足寄町商工会経営発達支援事業による伴走型支援事例の報告【資料1】

前崎指導課長より資料1に基づき説明した。

2. 令和元年度経営発達支援事業及び伴走型小規模事業者支援推進事業の実施について【資料2】

㈱アイ・ピー・エス、山崎氏より調査報告書について別紙資料2に基づき説明した。

3. 事業評価・見直しの検討【資料3】

前崎指導課長より資料3に基づき説明した。その後、次の意見があった。

- ・【道銀行中住支店長】：評価にあたっては定量面、定性面総合的な判断で良いか。また、前年値比較、目標値比較あるがどちらと比較するのが適当か。
- ・【専門家加藤玲氏】：取り組みについて、評価しても良いのではないか。足寄町商工会はチーム全員で取り組まれている。また行政との連携も図られていることが「道の経産局」に取り上げられていることでも評価され、事業の結果にも表れている。内容を見るとC評価がB評価、またB評価がA評価でいいものもある。国の思惑のズレによって、調査事業や、地域振興が経費として認められないなど当初の計画が思うように進まない事業もある。貢献度や

努力も報われていいと思う。

- ・【村田課長】：目標値があるもの、設定していないものもある。評価せざるを得ないが、評価するにも形として見えるもの、見えないものがある。P6の「2. 経営状況の分析」の自己評価【A】に対しては過大評価ではないかと思う。
- ・【十勝支所(亀田氏)】：足寄町は第1回認定であるが、先の認定商工会の辛いところは、国の評価基準も変わってきた(乖離している)ところである。基本計画では5年で無理するような計画だったと反省している。2期目については、無理のない計画を作っても良いとなっている。ガイドラインでも支援できる事業者の数としては指導員1人あたり20社程度が妥当という判断。貢献できたという視点で考えると2人で40社前後の基準で良いと思う。p6の経営分析数の目標値では220件となっているが基準を大きく超えているので、現時点で6割ほどの達成が悪い数値かという判断は厳しいと思う。

事務局の評価に対し、評価委員の意見を総合し⑦についてはC評価からB評価に変更し、下記のとおりの評価とした。

①地域の経済動向調査に関する事	評価【 B 】
②経営状況の分析に関する事	評価【 A 】
③事業計画策定支援に関する事	評価【 B 】
④事業計画策定後の実施支援に関する事	評価【 A 】
⑤需要動向調査に関する事	評価【 B 】
⑥新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事	評価【 A 】
⑦地域経済活性化事業	評価【 B 】
⑧他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事	評価【 A 】

その他、事務局は意見等を求めたが特に発言はなく、評価委員会を閉会した。時に午後7時20分であった。